地域密着型サービス事業者　自己評価表

（　認知症対応型共同生活介護事業所　・　小規模多機能型居宅介護事業所　）

事　業　者　名	グループホームあけぼのⅢ ユニット1	評 価 実 施 年 月 日	平成20年8月28日
評価実施構成員氏名	古川　えみ　　石川　重正　　舘入　美弥子　　高柳　美千子　　木戸場　幸夫　　宮島　園美 森田　みどり　　東海林　照子		
記　録　者　氏　名	古川　　えみ	記　録　年　月　日	平成20年8月30日

北　海　道

は外部評価項目

	項目	取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
１．理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域密着型サービスの意義を職員全員が理解し、地域との関係性の継続を図ると共に、個々の入居者が自分らしい生活が送れるよう理念に掲げている。		
2	○理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を、玄関・ホール・事務所に掲示し、全職員の目に届くようにしている。又、各自の名札の裏にも理念が書かれており、常に確認できるようにしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	玄関の入り口やホールの廊下に理念を掲示することで、面会時に目に付くようにしている。契約時にも理念について説明し理解を得ている。		
２．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	入居者との散歩の際、近隣の方々と気軽に挨拶を交わしたり、またホーム入り口にベンチを置き、入居者と近隣の人が交流出来るような環境を整えている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内の清掃活動に率先して参加すると共に、町内の回覧で当グループホームの特性等を紹介している。	○	今後も定期的に通信を発行し、取り組みや現状をを伝えていく事で町内の理解や協力を確保していく
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の高齢者や介護をしている御家族から相談等を受けた際には、専門職としての知識を生かし、助言をする事で地域の貢献に努めている。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義は理解しているが、評価を活かした具体的な取り組みを行なうまでには至っていない。	○	前年度の評価を見直し、取り組むべき項目をユニット会議の議題に上げ検討し、改善に向けて取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は開催し、会議の中で事業所の紹介や介護保険制度の現状を参加者に伝えてはいるが、サービスの向上に生かした意見を討議するまでに至っていない。	○	今後参加者からの意見や要望を受け、双方的な会議となるよう努めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市役所の地区担当者に訪問や電話等で、当グループホームの抱えている現状や疑問点を相談し、情報を共有する事でサービスの質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	以前後見人制度を利用していた入居者様が入居していたため、仕組みについては理解できている。	○	今後も必要に応じて随時活用していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	毎朝のカンファレンスの中で、入居者の異変や外傷等があった際には、原因を追究する事で虐待の防止に努めている。また、職員間で虐待が見過ごされる事の無いよう注意を払いながら、日々の介護に努めている。		
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解･納得を図っている。	契約･解約の締結の際には、管理者が御家族に説明を行うと共に、随時疑問点や質問を受け、納得が得られるよう取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者からの不満、苦情が生じた際には、管理者に報告すると共に、毎朝のカンファレンス時に検討し、その都度すぐに対応している。又、面会時等に御家族からの意見が聞ける機会を設けるようにし、問題点があれば速やかに改善できるよう取り組んでいる。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月利用明細書と共に、日常生活や健康状態を各担当者が手紙にて送付している。また、御家族が来訪した際には、近況をその都度報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	御家族の面会時には、管理者や職員が近況報告を兼ねて話す機会を設ける事で、意見や要望が気軽に話せる様配慮している。また、玄関に意見箱を設置し御家族を含め外部からの意見をいつでも投函できるようにしている。	○	運営推進会議に多数の御家族の参加を呼びかけ、その中で意見や要望を聞き、改善に向け協議できるよう努めていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ユニット会議の際に、適時議題に上げて討議できる機会を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の個別の要望や病院受診に合わせて勤務体制を整えると共に、急変時など必要に応じて対応できるよう勤務の調整を行なっている。	○	勤務シフトが職員の負担にならず、心身ともに余裕を持った勤務体制になるよう配慮していく。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	今年度は職員の異動や離職があったが、利用者へのダメージを少しでも軽減できるよう、利用者とのコミュニケーションを図ると共に、職員間でも出来るだけ多くの情報の共有に努めた。	○	今後は職員の離職を無くす為にも、働きやすい環境を整えていく。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	事業所内でも定期的に勉強会を設けると共に、外部の研修についても人選し、年間を通して職員全員が受講できる機会を確保している。	○	今後も、積極的に外部や事業所内での研修会に参加し、自己のスキルアップに努められるようにしていく。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	同系列のグループホーム内での訪問や合同の勉強会を通し、個々のグループホームの質の向上に向け取り組んでいる。	○	今後は、系列外での交流を確保することで、意識の向上・スキルアップを目指したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	現場の意見や問題点を打ち明け、ストレスの軽減や問題解決の橋立てになるようよう、新たに介護エリアマネージャーを設け取り組んでいる。	○	介護エリアマネージャーが、徐々に現場に浸透していくことで、事業所全体が一環となり、問題解決に取り組んでいきたい。
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	年に1回全職員が実績や勤務状況について自己評価を行い、それを基に上司と面談をした上で昇給や賞与を決定している。		
Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援 １．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居に至るまで御本人と繰り返し面談を行う事で、意向やこれまでの馴染みの生活状況を少しでも多く聴き出し、得た情報を全職員に周知することで、御本人の安心感の確保に努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	御本人同様、繰り返し面談を行い、御家族の意向や入居についての不安を解消できるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時、本人・家族・これまで利用してきたサービスの関係機関等から幅広く情報収集を行ない、ニーズを見極めている。また、必要に応じて他事業所の介護サービスも検討している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族・関係機関と情報交換を行い、その情報から職員が日々のケアを検討し、場の雰囲気に馴染めるように、入居者との関わり方や環境を工夫している。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	個々の入居者に対して、人生の先輩としての尊厳の気持ちを念頭におき、その方々の生活の一部を共有し支えあえる関係を築いている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、近況報告を家族に手紙で知らせると共に、面会時にも日常生活の様子を伝えることで、家族との信頼関係を構築している。また、年間行事にも参加を呼びかけ少しでも御本人と一緒に過ごせる機会を設けている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	御本人と御家族との関係を職員が理解し、面会に来た際には家族との時間をゆっくりと過ごしてもらえるよう配慮している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	御本人に馴染みのある知人が、気軽にホーム内に出入りが出来る雰囲気作りに努めると共に、馴染みのあるスーパー等にも買い物に出掛けたり、時にはご家族と一緒に食事等に出掛けられるよう外出支援も行っている。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士の関係を把握し、自然と楽しく会話ができるように、ソファーやテーブルの配置等の環境を整備すると共に、職員が仲介に入る事で互いの関係がスムーズに行くよう働きかけている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	医療的な支援が必要になり同系列の事業所に移動した入居者が1名いたが、訪問時にその方のご様子を拝見したり、声を掛け合ったりするなどし関係を継続している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	介護計画作成時に、本人・家族の意向を確認しプランに反映させており、個々の入居者に合わせた暮らしが送れるよう努めている。又、自己主張が困難な入居者については、生活暦や日々の暮らしの様子からニーズを見極めるようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に、センター方式を活用し、家族や関係機関から情報収集を行い、生活暦や馴染みの生活の把握に努めている。また、入居後は御本人との会話や日常生活のの中で情報を収集している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個々の入居者の生活リズムを職員が把握しており、1人1人が独自の生活の流れや役割を持ちながら、心身ともに安定した生活が送れるよう支援している。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	カンファレンスの実施やユニット会議時に、各職員が担当になっている入居者様の情報を共有し、また御家族の面会時に意向を聞くことで、出来る限り利用者本位の介護計画を作成している。	○	3ヵ月毎の評価時に合わせて担当者会議を開催し、御本人をはじめ御家族や関係職員が意見を協議し合い、より利用者のニーズに沿った介護計画を作成していけるよう検討していく。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	実施期間を原則的に3ヶ月とし、見直しを行なっている。また、状態に変化が生じた場面は、適時行なっている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践･結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護計画をもとに、１日の活動内容を事業所独自の生活シートに記載し、職員全員が把握している。また、毎朝のカンファレンスで、介護計画に基づいたサービスの提供を討議し、自立支援に向け取り組んでいる。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	協力医療機関と連携し訪問診療、緊急時の往診を利用している。また、必要に応じて各種手続きの代行も協力医療機関のソーシャルワーカーに相談･委託をしている。	○	近郊に同系列のデイサービスがあるため、その場を介して利用者同士の交流の場が持てるよう検討していきたい。
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○　地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化･教育機関等と協力しながら支援している。	入居者の安全を守るための、消防訓練や救急救命などの職員の育成に関して消防署を招いて指導を受けている。	○	ボランティアの受け入れが少ないため、今後は定期的にボランティアの慰問等検討していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	個々の入居者ニーズに合わせて訪問理容、訪問歯科、介護タクシーなど積極的に利用している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在は、積極的に地域包括との協働が実践されていない。	○	運営推進会議の参加を呼びかけたり、地域包括主催の勉強会に参加する事で、協働できる関係を作っていきたい。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	在宅医療管理として、24時間体制で主治医との連携を図っていると共に、医療連携として看護師による健康管理の支援を受けている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症専門医の受診は現在受けていないため、今後検討していきたい。	○	認知症専門医が主催する講演会に積極的に参加することで、認知症について指導や助言を受けられるような関係性を構築していきたい。
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	医療連携として週1回、かかりつけ医院の看護師が訪問し、日常の健康管理等の支援を受けている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、スムーズに治療が行える様に必要な情報を提供し、退院前には主治医や担当看護師から必要な情報を収集すると共に、退院後も協力医療機関を通じて指導を受けている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	事前に終末期の対応について、御本人や御家族の意向を確認しており、重度化した場合にも、再度主治医・家族と繰り返し協議した上で、今後の方針を決めており、職員も主治医の指示に従い対応している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること･できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	協力医療機関と連携し、急変時には速やかに対応が出来る状態にしている。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	他の居宅へ移り住む際には、十分に情報提供を行い御本人が不安やストレスを感じずに、これまでの生活習慣が継続できるよう努めている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	常に入居者に対して尊厳や敬意を払い、その人に合わせた言葉がけや対応を心掛けている。又、個人にかかわる情報は、施設外では一切口外せず、情報の持ち出しも行っていない。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	個々の入居者が適切に理解が出来るような説明をした上で、意向を確認し自己決定ができるよう支援に努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々の入居者のペースに合わせて出来る限り、その日の体調や気分に沿った生活を送れるよう支援している。また、入居者の希望があった際には柔軟に対応している。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている。	その日の天候に合わせた洋服選びを行っている。また、理容に関しては本人・家族の要望を聞き定期的に訪問理容を利用している。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の行える範囲を見極めながら、食事の下ごしらえや食器拭きをしてもらっている。また、定期的に入居者と一緒に買い物に行き、その人の嗜好品や季節感のある食材を購入している。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	喫煙できる場所を設けていると共に、個々の入居者の嗜好に沿った飲食品を提供している。また、入居者が自分でおやつを購入し、好きな時に自室で食べたり、御家族の差し入れを一緒に食べたり等楽しめるようにしている。	○	持病により、好きなおやつや飲み物等を口に出来ない入居者に対しては、主治医と相談しながら、満足のいく嗜好品を提供できるよう検討していきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の入居者の排泄パターンを把握し、出来るだけオムツに頼らずトイレでの排泄を支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	時間帯は職員の配置上、午後からになってしまうが、入浴時間や入浴日等はできる限り希望を聞いて対応している。	○	今後は入浴時間をもっと柔軟に対応できるよう、ユニット会議で検討していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	昼夜逆転しないように、日中適度に活動できるよう支援している。起床時、就寝時、日中の休息は、極端に日常生活に弊害が起こらない限り、個々の入居者の生活リズムに合わせている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個々の入居者の得意な事や好きな事を見極めながら、洗濯物たたみや茶碗拭きなどの家事を職員と一緒に行ったり、昔の歌を聴いたり散歩をしたりなど、その人らしく充実した生活を送ってもらえるように支援している。	○	今後も自身の役割を継続していけるよう、出来ない部分を職員が補いながら支援していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理が行える入居者に関しては、現金を所持し自己管理している。自己管理が困難な入居者は施設側で預かっている。	○	自己管理が困難な入居者に対しても、御家族と相談しながら、金銭の使用や所持を検討していく。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	入居者の要望に応じて外出支援を行っている。また、季節感を味わってもらえるよう、町内を散歩したり庭の畑を見に行く等、外に出る機会を増やすようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	職員が担当入居者に対して個別の外出行事を行う等の支援を行っている。また、御家族が近所への外出や外泊、温泉旅行等積極的に行っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	御家族の了解のもと、携帯電話を利用している入居者に関しては、自由に家族や知人と電話のやりとりを行っている。	○	遠方に住んでいたり、なかなか面会に来れない御家族に対しては、電話を掛けたり手紙や葉書きを書いて送付できるように、職員が積極的に支援していく。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間を決めていないため、自由な時間に訪問できるようにしている。また、訪問時には居室やホールの好きな場所で、気兼ねなくゆっくりと過ごしてもらえるよう配慮している。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を設置し、日常生活での拘束を職員が理解した上で防止に努めている。また、同系列のグループホーム内で事例検討や情報を共有し、防止策を協議し取り組んでいる。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中の施錠は行っておらず、自由に散歩に出掛けたり、裏庭に行ける状態にしている。その際には職員が行動を把握し、必要に応じて同行している。		

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中自室で過ごしている入居者に対し、さりげなく声をかける等して様子を把握している。また、夜間帯は3時間毎の巡回を行うとともに、小さな物音でも反応できるよう急変時に備えている。		
68	○注意の必要な物品の保管･管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	注意の必要な物品に関しては、保管場所を決めている。また、異食の危険性を持つ物についての置き場所にも十分注意している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	服薬は、段階的に別の職員が確認する等、未然に防止するため職員全員が徹底している。また、事故に繋がりそうな物事に関しては、インシデントレポートを提出すると共に、毎朝のカンファレンスやミーティングで話し合い、事故防止に努めている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変時の対応は、協力医療機関からその都度指示を受け対応している。また、消防士の指導のもと救急救命の訓練講座を受講し、救急時に備えている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防火管理者の指導のもと、定期的に避難訓練を行なっている。また、運営推進委会議を通じて、近隣の方々に災害時の支援をお願いしている。	○	今後、年2回避難訓練を実施していく。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	毎月、御本人の生活状況を文章にて御家族に伝えている。また、状況の変化が見られた際には、家族に訪問時や電話での連絡を行い、起こりうるリスクや今後の対応を説明し理解を得ている。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタル測定を行うと共に、変化が生じた際にはその都度、協力医療機関に相談している。また、その都度記録に残し、職員全員が把握できるようにしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	各入居者の薬の情報を毎日確認し、理解している。服薬の支援も服薬マニュアルに基いて、毎回注意しながら行っている。症状の変化等見られた際には、直ちに協力医療機関に連絡し、指示を受けている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便チェックリストを作成し、毎日確認すると共に、個々の入居者に合わせた排便管理を職員全員が周知し徹底する事で、サイクルの整った排便が行なえている。	○	薬だけに頼るのではなく、日中は適度に身体を動かすなどの生活環境でも対応していく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎朝晩、職員が口腔ケアの介助を行っている。また、職員の中に歯科衛生士の資格を所有しているものがいる為、個々の入居者の口腔衛生について指導・助言している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の必要摂取カロリーに基いて献立を作成している。また、嚥下状態を考慮した食事形態にしたり、食事の制限がある入居者に対しても、他の入居者と出来るだけ差がつかないよう配慮している。飲水に関しては毎日水分摂取量を記録し、必要量摂取できるよう支援している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等）	感染症マニュアルがあり、それに基づいて感染委員を中心とし、感染予防を徹底している。また、インフルエンザ等の流行時には、入り口に張り紙をしたり、文章を送付するなどして訪問者にもうがい、手洗いや生ものの差し入れの制限等呼びかけている。	○	今後もインフルエンザや食中毒の流行期間は、マニュアルの再確認を行い徹底していく。

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食品衛生管理マニュアルがあり、全職員が把握し実行している。食材も、毎日購入する事で、新鮮で安全な食材を提供している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先に色とりどりの花を置く事で、建物の威圧感を無くし出入りしやすい空間を作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールや廊下には、季節に応じた飾りを壁に飾ったり、季節の生花を花瓶に生けるなどして、季節感を出している。また、家庭的な雰囲気作りを心掛け、落ち着いた居心地の良い空間にしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファーやテーブルの設置を工夫する事で、個々の入居者が自分の好きな場所で、団欒の場を設けたり、また一人の空間が持てるようにしている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時には、在宅時に使用していた家具や、馴染みの物を置いたり、ご家族の写真を貼ったりするなど、居心地の良い空間になるよう配慮している。		
84	○換気･空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	冷暖房設備が整っているため、年間を通して快適に生活が出来る様配慮している。また、冬季間は暖房による乾燥を防ぐため、加湿器も使用している。	○	温度差による身体の負担が無いよう配慮していく。
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 （実施している内容 ・ 実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （既に取り組んでいることも含む）
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ホーム内は完全バリアフリーで、ホールや廊下も車椅子の通行の弊害にならないようなスペースを設けている。安全面に関しては、ホール・廊下・居室全てに手すりを設置している。また、トイレも自立用と車椅子用があり、個々の入居者の身体状況に合わせて利用している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	御本人、御家族同意のもと、各居室に名前や表札、顔写真を掲示し自室が分かるように工夫している。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前にベンチを設置し、入居者が自由に花壇の花を見たり喫煙するなどのくつろげる場を設けている。また、裏庭の畑に行き育った野菜を収穫している。		

Ⅴ．サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の２／３くらい ③利用者の１／３くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族 ②家族の２／３くらい ③家族の１／３くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

Ⅴ．サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の２／３くらいが ③職員の１／３くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２／３くらいが ③利用者の１／３くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２／３くらいが ③家族等の１／３くらいが ④ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点
等を自由記載）